

Claim:

A ball joint for supporting a stabilizer, wherein

a socket portion of the ball joint is integrally formed with an attachment bracket of attachment opponent member by sheet metal processing,

a joint portion houses a spherical head portion of a bar for the stabilizer and a bearing within the socket portion, and holds these members by press-fitting of an end cover, and a dust cover is attached thereto.

Explanation of reference numerals:

- A vehicle main body
- B stabilizer
- I lower link
- 1 bracket
- 2 socket portion
- 3 bar
- 4 bearing
- 5 end cover
- 6 dust cover

④日本国特許庁(JP)

④実用新案出願公開

⑤公開実用新案公報(U) 昭62-118715

⑥Int.Cl.*

B 60 G 21/04

F 16 C 11/06

識別記号

厅内整理番号

⑦公開 昭和62年(1987)7月28日

8009-3D

8211-3J

審査請求 未請求 (全頁)

⑧考案の名称 スタビライザー支撐用のボールジョイント

⑨実 請 昭61-7068

⑩出 請 昭61(1986)1月21日

⑪考案者 松本 広一 浜松市御船町283番地の3 リズム自動車部品製造株式会社内

⑫出願人 リズム自動車部品製造
株式会社 浜松市御船町283番地の3

⑬代理 人 弁理士 清瀬 三郎 外1名

明細書

1. 考案の名称

スタビライザー支持用のボールジョイント

2. 実用新案登録請求の範囲

ボールジョイントのソケット部を板金プレスにて取付相手への取付用プラケットと一体にて成形し、ジョイント部は該ソケット部内においてスタビライザー用バーの球頭部およびそのペアリングを内包しこれ等をエンドカバーの圧入で保持構成し、これにダストカバーを取付けてなることを特徴とするスタビライザー支持用のボールジョイント。

3. 考案の詳細な説明

産業上の利用分野

本考案は自動車の足回りのスタビライザー支持用のために設けるボールジョイント構造に関する。

従来の技術

従来のスタビライザーの支持締結方法としては、例えば第3図に示すようなものがある。



第3図においてAは車体、Bはスタビライザー、Cはスタビライザー支持用のスタビライザーバー、Dはボルト、Eはゴムブッシュ、Fはプラケット、Gはカラー、Hはアッパーリンク、Iはロワーリンク、Jはロワー・ボールジョイント、Kはロッドを示す。

考案が解決しようとする問題点

しかしながらこのような従来のスタビライザー中央部の車体への支持結構やスタビライザー端部のロワーリンクへの締結方法にあつては、締結部にゴムブッシュを使用する構造となっていたため、車両がコーナーを曲る場合、ゴムブッシュのタワミが発生し、ゴムブッシュのタワミ量が大きいためスタビライザーとしての効果が少ないという問題点があつた。

問題点を解決するための手段

本考案はこのような従来の問題点に着目してなされたもので、従来のゴムブッシュの使用をやめ取付相手部材への取付プラケットとプレス一体型のボールジョイントソケットを設けスタビライザ

ー支持用のバーを嵌ボールジョイントソケット部においてボールジョイント結合構造とし結合部の剛性を高めさせることにより上記従来の問題点を解決するものである。

実施例

以下、本考案を図面に基づいて説明する。

第1図は本考案の一実施例を示す図である。

まず構成を説明すると、Aは取付相手部材がある車体、1は取付用のプラケット、2はプラケット1と一体のボールジョイントソケット部であつて、1、2は板金プレスにより一体に構成される。ソケット部2にはバー3の球頭部3aおよびそのペアリング4を包含しこれ等をエンドカバー5で圧入し、バー3に適当なるトルクを発生する構造となっている。ダストカバー5は水、ダストの侵入防止用に取り付けられる。バー3はその先端軸受部7にてスタビライザーバーBを支持する。

第2図は本考案の他の実施例を示した断面図で、まず第1図と比較して説明するとバー3の上部にはスタビライザーバー端部をゴムブッシュ9にて

ワッシャー 10 を介し挿むように装嵌し、ナット 8 にて締付固定されている。またバー 3 の下部は球頭部 3a を有しペアリング 4 を介しプラケット 1 が構成され該プラケット 1 はロワーリング 1 に取付けられる。

考案の効果

以上説明してきたように本考案によれば、その構成をボールジョイントソケット部 2 を相手部品（車体またはロワーリング）への取付用プラケット 1 と板金プレスにて一体塑にし、かつ該ソケット部をボールジョイント構造としたため第 3 図に示すような従来のスタビライザーの締結方法に比しゴムブッシュ、カラー、ボルト等が不要で組立工数も少なく、かつ部品点数も少なく、また締結部の剛性を上げることによりスタビライザー効果を大とすることができるという諸効果が得られ、部品点数を減らすと共にローコストなスタビライザーを提供することができる。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本考案実施例の要部縦断面図、第 2 図

は本考案の他の実施例を示した断面図、第3図(i),(ii)および(v)は従来例のスタビライザー配置の要領図、スタビライザー中央部の車体への支持締結部の断面図およびスタビライザー端部のロワーリングへの支持締結部の断面図である。

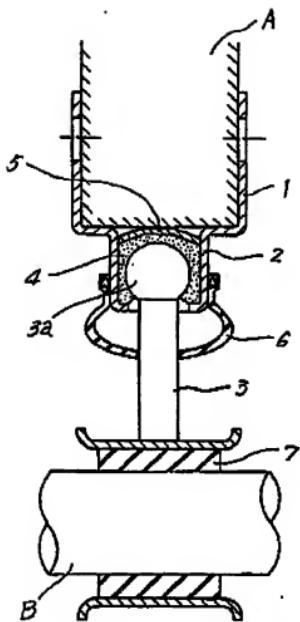
A…車体、B…スタビライザー、I…ロワーリング、1…プラケット、2…ソケット部、3…バー、4…ペアリング、5…エンドカバー、6…ダストカバー。

以上

代理人 清 眞 三 郎
同 足 立 卓 夫



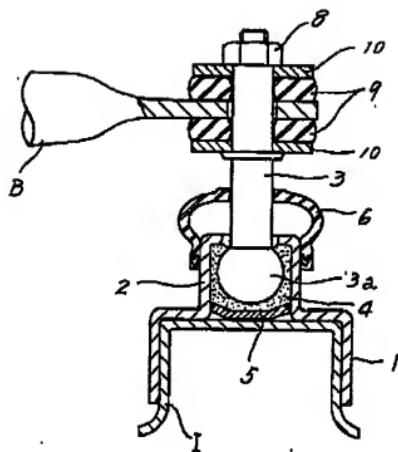
方1 図



162

代理人清瀬三郎外1名
審問番号-111x71E

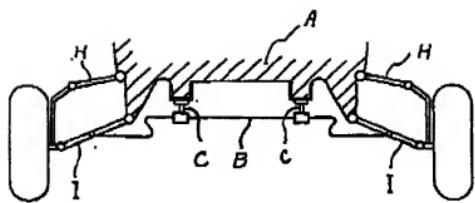
方 2 図



163

実開62-118715
代理人清瀬三郎外場

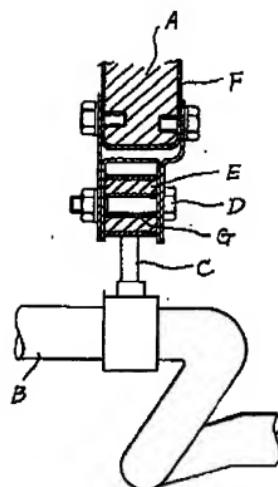
才多圖
(1)



164

代理人清潔三部外場
審理印-118715

ガラス
(口)



ガラス
(ノ)

